時事新報

第千五百十六號
明治二十年二月十九日　土曜日
舊丁亥正月廿七日（乙卯）
日出午前六時四十五分　日入午後五時四十四分
月出午前四時零五分　月入午後二時二十九分
滿潮午前二時三十四分　午後三時十三分
（西曆一千八百八十七年）

時事新報

封建士族は尤めに倣ふ勿れ

嘗て封建の時代三百の藩屛國内に并立して各その境土を守り隱然敵國の勢をなせし時に當りては其藩中に養はるゝ所は士族なるものゝ畢生の目的、事ある時は主に事ふるに忠誠にして事なきの日は潔よく君は馬前に討死するに外ならず功を立て名を擧ぐるも一藩の中なり身を誤り事を破るも一藩の中なり毀譽榮辱死生成敗、總て一藩の中を限りとして藩外亦天地なきもの〻如く而して上下尊卑の分、殊に嚴しく其中に行はれ家老より諸士に至るまで其次第順序甚だ分明にして苟くも之を亂る能はず子々孫々相傳へて以て更に變通損益する所なし故に青年有志は士いろの無聊窮屈に堪へずして頭角を他に顯はさんと欲するものなきにしもあらずと雖も全國到る處藩に大小の別こそあれ其仕組の同様なるのとは三百餘藩恰も符節を合はするが如く加賀薩摩の大藩より五萬石三萬石の小藩に至る迄其藩内の仕組には一も變る事なければ日本國中何れの處に行くも其志を伸ぶるの地なしされはかゝる時代に在ては志士たるもの〻出處進退甚だ困難にして藩中に蟄居して碌々諸大夫の後へに從はんか否らざれば斷然勇退、弓矢取る身を捨てゝ武士は仲間を脱するの二途なるのみ今日文明士人の眼より之を見れば兒戯に類して一笑にも價せざるべしと雖も我々の祖先は三百年間かゝる窮屈なる天地に生死して以て我々今代に至りたるものなり故に斯の如き時代に於ては如何なる英俊の人傑にても空しく萬里雄飛の志を抱て馬櫪の間に斃死するより外の便はなかりしに事あらんが明治維新の一擧次で廢藩置縣の英斷大小の諸藩を併合して國内と一統して昔日の窮屈なる境界は解て氷雪の痕を存せざるが如く春風和日の濶天地、志士獨立して其志を伸ぶるを得るに至りたるは誠に愉快の事なるが怪しむべきは青年志士は盡是舉動なして立派に自由自在の身を持ち乍ら猶は局促として小天地に蟄伏するの一事なり今日に至ては日本の國内に所謂藩なるものなしと雖も日本と稱する小藩に局促して其他に天地あるを知らざるが如きは豈しかる次第ならずや抑も今日世界各國の并立する有樣は昔日、日本國中に於て大小諸藩の并立せし有樣と稍や異なる所なし唯其大に異なる所は今代の各國は政治上に於てこそ互に其境土を區劃して敵對の觀をなせども商賣交際の社會に至ては甚だ自由自在にして世界到る處人の交通來往を禁せず自由の棲息する所は我邦國なりといへる諺は今日の世界に於ては政治社會の外何れの處にも適用すべきなり左ればこそ歐洲諸國にては海外移住の事早くより行はれ國内に在て産を成すの目途なきか又は他に見込む所あるものは米國濠洲又は東洋諸國に移住して富貴を謀るは通常の事にして身体強壯にして少しく志氣あるものは何れも國内に在て人の驥尾に付くことを恥ぢ外國に移住せる者少なからず現に歐洲諸國より米國に移住せるもの〻みにても年々數十萬人に下らずといふ蓋し其移住の原因に至ては富貴殖産の目途よ出づるものも又或は政治上の不平等よりするものもなるも何れにしても歐洲諸國の人民が自由自在の天地を利用して自由自在に身を運轉するは實に羨やましき限りといふべきなり然るに日本の青年志士はこの自由自在なる天地にあり剩さへ國内にては不景氣に責められて不自由に苦しみながら自ら進んで自由を受くるの術を講せず終生兀々として自ら求めて死地に陷るとは何ぞその計の拙なるや墳墓の地戀ひしきが爲めか愛國の情忘る〻能はざるが爲めか日本小なりと雖も護國の事は已に其人あり亦君等の力を勞するに及ばず人間到る處に青山あり埋骨何ぞ必ずしも故山の地に限らん封建の士族が局促として一藩の中に死生したるを見てはその卑屈の有樣を憫笑しながら己れ自らその尤に倣はんとするは抑も亦何の心ぞや封建の時代には日本國中藩外に身を立つるの地なかりければこそ有志の士と雖も止むを得ずして一藩内に生死したる譯なれ若し昔日の志士をして君等が今日の情態を見せしめなば今日の時世を羨むと同時に却て君等が敢爲の智勇に乏しきを憫笑することならん文明の男子たらん者は封建士族の笑を地下に招くことなかれ

官報

○屠獸景況一斑　警視廳に於て調査せる明治十九年中芝濱屠獸の景況左の如し

本年芝濱屠場に於て屠殺せし獸類は總計二万千二百九十七頭にして内一万五千二百七十四頭は和種牝牛、四千二百一頭は同牡牛、四十九頭は洋種牝牛、二十一頭は同牡牛三十八頭は雜種牝牛、八十頭は同牡牛、六百七十四頭は犢牛百四十一頭は綿羊、八百十九頭は豚なり又他の屠殺に係り當屠場に於て取に檢査せし肉類は總計三百二十一頭にして内牛肉二百四十二頭は神戸より四十九頭四分一は横濱より十二頭半は馬關より三頭半は愛知より二頭は四日市より四分の三は安房より羊肉十一頭は千葉縣佐倉より輸入せるものとす

本年屠獸の頭數非常に增加し昨十八年の屠數一万六千二百七十頭に比すれば之に超ゆること五千餘頭にして累年其比を見ざる所なり今斯の如く著しき增加を來たしたる所以を究むるに全く世上一般衛生的の理進化するに伴ひ之を食するもの〻增加せるに因するものにして實に府下肉食の日に月に旺盛に赴くの一斑を卜するに足る然れども本年の如きは又幾分か虎列剌流行と陸海軍々隊の食料改良試驗とに於けるも其一因に居るもの〻如し

毎年夏期特に本年の如き降雨少なくして旱魃打續くせきは吾人の恐怖する炭疽熱の萌芽一地方或は他の地方に發生して屢々流行することあるは常に目擊する所なり故に豫め夏季の候に至れば屠獸生前死後の檢査に尚ほ一層注意を加へ嚴密に精査して毫も忽ることなかりき然るに本年六七月の頃に至り埼玉縣に炭疽熱發生し一時頗る猖獗を極め日々數十頭の馬匹を斃し倍々蔓延の兆あるに由り主管者廳より數名の獸醫を派遣し病地を分割して畜類の通行を遮斷し豫防消毒を嚴にして漸く鎭滅に歸せりと雖も尋きて靜岡和歌山兩縣の如き近くは神奈川縣の如き前後陸續該疫發生の報に接し尚ほ戒心を忘らず毫末も粗漏なきを期する折柄九月中旬に至り當場に牽入れたる牛中常態を失し錯雜の徵候を呈して苦悶の狀を示すものあるに由り之を炭疽病疑似症となし特に七日間の屠殺停止を命じ之が經過を驗したるに幸に其恢復するものよりて順次之を屠殺して皮下の狀態並に内臓諸管悉く精査して遂に打撲症なることを檢明し其肉の販賣を許可せり

屠殺停止を命じたる牛畜十七頭の徵候を案ずるに過半一角或は双角を失し眼球突出濃涙を灑らし結膜或は其他の粘膜鮮紅色を潮し皮膚の諸部特に尾骨部絣擦し或は創傷を蒙むり呼吸迫迫四肢跟蹌として趁行し體溫各自不同ありと雖も槪ね一て華氏百二度以上を示し神經活動の狀を呈し或は活氣を失し哀頽の狀をなし徵候頗る錯雜にして多少炭疽熱に類似する所なきにしもあらず由りて之を炭疽病疑似症となし特に五日間の停止を命じ之が經過を驗したり而して一週日の後之を再査するに以前の徵候減退し或は消滅して全く健體に復するもの〻あるを見る故に之を屠殺し猶皮下の狀態並に内臓諸官を精査するも敢て異狀を見ず曾て之を見ざるのみならず其血液を顯微鏡下に照らすも毫も微生物の現存せるを見ず（未完）

（以上本年二月十八日官報）

雜報

○廳中取締廢止　警視廳にては從來廳中取締を置きて廳中一切の非常取締を爲さしめたるが右は一昨日限り其名義を廢して向後は外勤部警官を以て同取締向を擔任せしむる事に成りたり

○獨逸は海軍　今度發布になりたる千八百八十七年の獨逸海軍表に據れば軍艦の數は甲鐵艦十三艘甲鐵を鎧ひたる軍艦十四艘巡洋戰艦九艘巡洋快走艦八艘巡邏艦五艘砲艦四艘注進船五艘演習船十一艘其他の軍艦三十一艘にして水雷火船の數は殆んど百五十艘もありて昨年よりも五十餘艘も增加せり又將校は數は五百廿三人にして昨年よりは五十九名の增加ありと近着のペルメルバゼットに見ゆ

○露國の軍艦新造　露國政府は今の露國東洋艦隊司令官コルニロッフ氏の名譽の爲め昨今佛國に於て新造中なる巡邏艦にアドミラル　コルニロッフ　の名を附したりと云へり

○傳染馬病　宮城縣磐城國伊具郡小田村に於て本年一月五日牡馬一頭皮疽病に罹り尋で陸前國元吉郡鹿折村に同患馬七頭あり爾後二月五日迄同郡内に於て同病に罹りたる馬四十二頭に及び稍蔓延の徵候あり聞く所に據れば客年中岩手縣の牛馬商病馬一頭を鹿折村に牽來り之を賣んとせしも望人なく終に牽て歸縣せしが其後數頭の馬匹皮疽病を發し漸次傳染して今日に至れり故に此病原は曩に牽き來りたる病馬より傳染したるものならんと云ふと雖も未だ確說と爲すべからざるを以て目下其原因取調中なりと又栃木縣下野國那須郡豊原村下都賀郡寒川村外二箇村に於ては頃日畜馬七頭鼻疽及皮疽病に罹りたる旨孰れも農商務省へ屆出たり

○御用紙　皇居御造營事務局にて同御造營の建具類に使用する紙は京都抄紙所にて製造したる物を用ゐる由

○人夫募集　鹿兒島縣に於て今度道路改修の大工事を起こすとは前號に記載せしが右の工事に用ゐる爲め熊本縣下天草地方に於て人夫二千人を募集し内五百人程は既に鹿兒島へ向け發程せるよし

○紋羽二重　西洋手拭地の輸出は近頃益々增加したる趣きを兼て本紙上に記せしが石川縣金澤の士族授產の爲に設立したる興產社にては盛んに紋羽二重を織出して白地は儘手拭地として輸出して來りたるに外人の嗜好に適ひ需要も追々增加せる由にて今度右手拭の縁に西洋染にて日本模樣を染拔かんとの工風中なりと云ふ

○種子の分與　大和國吉野郡國樔村の上西甚吉氏は從來樹木の培養に熱心の聞えある由なるが昨年來杉檜の種子を多く収穫せしに付試植をなさんとする者へは來る三月迄一人に付一合宛無代價にて五十人に分與する旨を大日本山林會へ申越したるよし

○徳利を以て魚を捕る　漁獵の方法も種々ある中に米國イリノイス州のウヰリヤ湖にて土人がプレアーヒツクレルと稱する魚を捕るは一種異樣と稱すべし其方法如何と云ふに始め土人は飲用の爲めに大なる麥酒壜を買ひ來り壜中の酒は悉く用ひ盡して空壜となし再び之に栓を爲し其頸に長さ五尺計りの糸を結び付け其一端に鰷魚を指したる釣針あるものを水中に投ずる時は空壜は水上に浮びて糸と共に波のまに〱漂ひ居れり如斯して數箇の壜を水中に投じ而して土人は小舟と漕ぎ去りて待つ内に魚は此餌に罹りたるが爲め壜が著しく動搖するを見て舟を漕ぎ寄せ魚と壜を捕へ終りて再び針と投ずるものなりといふ

○婦人の齒科醫　近着のフヰラデルフヰヤ新聞に曰く此頃當地に於て或る六名の婦人は何か職業を需めんとし而して何きの職業か好く婦人の身に堪へ易く且つ世間に其例少なからんかと考へ終に齒科醫となることに決したり尤もフヰラデルフヰヤの市中にて是まで齒科醫となりたる婦人は總計三百三十三人あるが是にても婦人に適當の職業中にては最も少數なるものにて同府齒科醫學校の教授ドクトル　セー　エス　イー　ガーレツソン氏の云ふ所に從へば齒科醫學は婦人に適當したる職
業はなかるべく…
んかを疑ふ程あ…
過して職業と需…
いたるまでは職…
に齒科醫の如ん…
卒業そるまでには…
たざるが故に斯…
ん現に今日該科は…
費等にて通例八百…
科醫とならんと…
の理と極めざる…
婦女子は甚だ少…
しき程なりとの…
よして始めて此科…
校よて一千八百…
人は名とへンリ…
亞の婦人なりし…
侍醫とあれり其…
同科を卒業し此…
科學校にても婦…
此二校より卒業…
卒業生の多くは…

○萬年會　京橋…
我國殖產事業の…
るものにて爾來會…
毎月一回宛は報…
にて會員の數も…
あらず其資金も…
着々事業の擴張を…
今の農工商業上に…
き人々に其講演を…
署下の如く極りた…
車改良方案（水上…
之助）家屋建築に…
吾）電氣工業の將…
化學工業（中村貞…
失（橋本莊一郎）座…
綿製造工業の現況…
害得失（古市公威…
すべき理財上の件…
賣入手順の改良（…
利益の割は平均加…
於て瓦斯を用ゐる…
の策、食用食獸畜…
等の講演者は未定…

○日曜日の談話會…
の上來三月の第一…
氣機械製造に關す…

○對州嚴原通信（…
對馬警備隊司令…
時鉄西丸に搭して…
國またる當地は現…
警備隊に編入の…
んとく當港西海に…
供離を極めたり右…
隊は近々警備隊の…
又警備隊は富分千…
の營所よては不十…
ある書畫主の邸…
せしむるといふ○…
當なる北嚴原長…